

59年目の8月15日に 子どもに つきあう 頼んで

あいかわらずの猛暑で、昼間の野良仕事は大変ですが、オリンピックで夜更かしが続いている方もいるんだろうなあ。じつは、その裏番組にも興味深い放映があったんですよ。

8月14日夜、NHK教育テレビのETV特集「戦場から伝えるもの～フリー映像ジャーナリストたちの記録」という番組を視聴して、ビデオにも録りました。

その中で、イラクで殺された若いジャーナリスト小川功太郎さんのメールが朗読されていました。ぜひ文章として残しておきたいと思って、うちの次女にテープ起こしを頼んだら、「がんばってみる」と引き受けてくれました。それが下の写真。8月15日の我が家の一コマです。

さて、ビデオを繰り返し再生しながら、キーボードをたたきはじめて次女。

「これ後で絶対リフっちゃうよ～」
「なにリフっちゃうって？」
「リフレインだよ」
「すると、“スナイパーが面白半分に通行人や子どもを撃ち殺し”なんて言葉が頭の中をぐるぐるめぐるわけかあ？」

「そうだよ。たまらないよ～」
とかなんとか苦労しながら、打ち込んでくれた小川さんのメッセージが、右記です。

できあがったところで、もしかしたらと気づいてネットを検索してみたら、小川さんのメールの全文がみつかりました。裏面に転載しておきます。



うちの次女の8月15日

同じく次女にイラストを描いてもらって試作したポスター。



NHK教育・ETV特集「戦場から伝えるもの～フリー映像ジャーナリストたちの記録」

テレビのナレーションから

イラクは、実は今こそひどいことになっています。とくにファルージャという町での米軍の蛮行は目にあまるものがあります。

スナイパーが面白半分に通行人や子



テレビ画面の複写

どもを撃ち殺し、町は手当たり次第に空爆、二週間で千人近い人が死んでる。これはもう戦争と言うより虐殺です。罪のない無実の人間を殺す、これこそテロ以外に何者でもないと思う。

世界のなかで日本がどうあるべきか、ということを考える、近年まれに見る良い機会だと思うのですが、でも、日本にいと、そんなこと考える余裕がないというも確かだと思います。

僕自身働き初めてからはそうした問題はなるべく考えずに避けて通って

し。仕事に追われ、その憂さを晴らすように腹一杯メシ食って、ボンダチーだと叫んでやり過ごしてた。

でも今回ばかりは、という気がします。前回イラクから帰って心から思ったけど、やっぱり平和というのはいいものです。

日本で満開の桜を見て、それを楽しむ人たちを見るだけで、涙が出そうでした。ありがたいことだなと。

できれば世界中の誰もがこの幸せを感じられればと思うのだけど、自分にできることと言えば、目の前で起こっていることを何とか伝える事と、こうして心ある人にメールを書く事くらいです。